

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004 0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道博物館内
電話/011 898 0456・FAX/011 898 2657

道博協の動向と課題 平成27年度の役員会より

道博協では、年3回の役員会で基本的な方針などを議論しています。近年の会員館減少による財政規模の縮小や、これを受けて平成21年度からはじまった「あり方検討会」での検討結果報告(第51回北海道博物館大会資料: pp.27-34)を踏まえて、今年度の役員会で検討された話題のうち2つについて、会員のみなさんにご報告いたします。

MM研修会の開催形態について

ミュージアムマネジメント(MM)研修会については、例年は秋季に開催していました。平成27年度は予算節減のため試行的に大会との同時開催としましたが、受入側の経験では「かなり大変」というのが率直な感想です。次年度も前年同様に同時開催の予定で進めていましたが、役員会で検討した結果、28年には日本ミュージアムマネジメント学会の大会が札幌で開催されるため、この大会への参加をもって研修に代え、道博協独自のMM研修会については開催しないとこととなりました。(本誌8ページをご覧ください。)

MM研修会は、25年度までの18回で道内6ブロックを3巡した後、26・27年度と道央での開催が連続しています。29年度(以降)、MM研修会をどのように開催していくべきかについては、これから継続して検討する必要があります。みなさまのお知恵をお貸しください。

道博協ニュースのあり方について

道博協ニュースについては、第1回役員会で、刊行形態や内容についての見直しを事務局より提案しました。紙媒体での刊行をネット上での情報発信に移行し、加盟館の情報は道博協ウェブサイトで各館が投稿できるような仕組みをつくるというものです。このことにより、刊行にかかる費用と労力を大幅に削減できるだけでなく、これまで会員宛の送付のみだった道博協ニュースの情報を、インターネットを通じて広く発信し、世界中の誰でもがアクセスできるようにな

るという大きなメリットがあると考えての提案でした。これに関しては、まずは会員の意向を調査してから改めて役員会で議論しようということになり、みなさまには第115号送付の際にアンケートを同封させていただきました。回答にご協力くださったみなさま、どうもありがとうございました。

アンケートの結果、もっとも賛同が多かったのは②でした(表)。これを踏まえ、今後は、メーリングリストによるPDFファイルの送信を基本に、紙媒体を希望する会員には印刷して郵送すると同時に、PDFは道博協のHPでも配信するという形態に移行する予定です。ただし、次の大会での承認を得る必要があるということで、それまでは紙ベースの刊行を継続することになります。

また、これまで印刷業者が行っていたレイアウト等の作業を自前でやる必要があり、編集にかかる業務量は以前よりかえって増えることになります。これについては、事務局でMicrosoft Wordなどのひな形をつくり、執筆者の方にはご自分でレイアウト作業をしていただくなどの方法を採用する予定です。より良い道博協ニュース編集のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

(北海道博物館協会事務局長 水島未記)

表 アンケート結果(概要)

①これまでどおり、紙ベースで会員向けのニュースを発行する。	11
②メーリングリスト等を活用して、PDFファイルでの発行をベースにすることで印刷費を圧縮する。ただし、インターネット環境の整っていない会員へは、紙面コピーを配布する。	33
③ニュースを廃止し、代わりに北海道博物館協会のホームページに、加盟館園がイベントや行事案内を投稿するシステムを搭載することで、より外部に向けた情報発信形態にする。	3
④道博協ニュースそのものを廃止する。	4
⑤その他	4

(複数選択可)



サッポロビール博物館

サッポロビール(株)は、1876年(明治9年)に当社の前身である「開拓使麦酒醸造所」が開業してから140周年を迎えるにあたり2016年4月21日(木)、北海道札幌市にある「サッポロビール博物館」を新装グランドオープンします。

歴史的建造物の赤レンガの外観はそのままに、3階建ての内部を11年ぶりに全面リニューアルします。

館内は、自由見学(無料)を基本としながらも、全館をガイド付きで巡る「プレミアムツアー」(有料500円、所要時間50分、試飲付き)を新たに実施。

「プレミアムツアー」では、北海道開拓という国策の中、若き先駆者たちが情熱を傾けてビール造りに邁進していく歴史物語を迫力のワイド6K映像シアターでご覧いただく「プレミアムシアター」に始まり、140年の歴史を12のパネルで紹介する「サッポロ ギャラリー」を見学、その後このたび新たに醸造した「復刻札幌製麦酒」をご試飲いただけます。「復刻札幌製麦酒」は、明治9年の文献を参考に原料を配合、明治14年当時の醸造方法をより忠実に再現し復活させたビールで

す。当社のフラッグシップである「サッポロ生ビール黒ラベル」と飲み比べていただき、開業当時と現在のビールの違いを体感できます。

開業140年の感謝の気持ちをこめて、道民の皆様はもちろん、道外や世界中からお越しになるお客様に向け、北海道発展の礎を築いた先人達の思いをつなぎ、これからも愛されつづける「サッポロビール博物館」を目指していきます。どうぞご期待下さい。

〈概要〉

所在地：札幌市東区北7条東9丁目1-1

館長：小野寺 哲也

開館時間：11：30～20：00

休館日：12月31日※但し毎週月曜日(祝日の場合翌日)は2階自由見学のみ営業

入館料：自由見学無料

プレミアムツアー有料500円(税込)



展示室のイメージ

(サッポロビール博物館 副館長 安藤達也)



第6回郷土学講座の開催

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、平成27年10月10日(土)に、江差町文化会館小ホールにおいて「第6回郷土学講座美術編 道南の美術を知る」を開催し、39名の方に参加していただきました。

「郷土学講座」は、当会に所属している学芸員がテーマに沿って地域住民に対して講座をし、あわせて各施設への集客を図る目的で、毎年開催しています。

過去5回は渡島地域での開催でしたが、今回初めて檜山地域を会場としました。

講師と演題は次の通りです。

- ①大下智一(北海道立函館美術館主任学芸員)「野田九浦、鏡谷抱圓、山口蓬春…道南ゆかりの日本画家たち」
- ②宮原浩(江差町教育委員会学芸員)「絵画と古文書から見る折居伝説」
- ③宮本雅通(今金町ピリカ旧石器文化館学芸員)「版画刷り師・赤川勲の仕事」

大下の講座で道南地域にゆかりある日本画家について概要を話した後、宮原の講座では江差に伝わる

「折居伝説」をテーマにして鏡谷抱圓が描いた絵画とそれに関する古文書について、宮本の講座では今金町出身の赤川勲が制作した版画について話しをしました。

今回の講座の特徴は、会場に実物資料を展示して、実際に鑑賞しながら講座を聞くことができるようにした点です。

講座会場で実物資料を展示することは、様々な制約があつて簡単なことではありませんが、この試みによって、講座だけでは伝わらない、実物資料の持っている力を再確認することができました。



会場の様子

(江差町教育委員会 学芸員 宮原 浩)



北海道博物館まつりに参加して

昨年7月11日(土)に北海道博物館で開催された「北海道の博物館まつり」に道北地区博物館等連絡協議会の一員として道北エリアの博物館園の紹介と体験コーナー担当として参加した。

道北エリアの博物館等の紹介については、パンフレット配布による紹介であった。来場者の中には、各施設のパンフレットを集め、時には内容をじっくりと読んでいる方もいたが、私の方は体験コーナーの対応に追われ、しっかりと紹介はできなかった。

体験コーナーは、旭川市博物館でアイヌ文化の体験活動で使用する「アイヌ文様のコースターづくり」を行った。コースター作りは、折り紙を4、8、16に折り、そこに文様を書き写しハサミで切り取り、広げて厚い台紙に載せ、ラミネートし丸く切り取って完成するものであった。参加者は、きれいに作ろうと真剣に絵柄を写し取り、切り抜いていた。コースターがうまく作れると、とても満足した表情を見せていた。

この行事を通して私が感じたことや反省として、パンフレット配布等による道北エリアの博物館等の紹

介では、各施設の存在は知っていたが、近年の展示や活動内容、その施設の学芸員等職員の専門分野など事前学習が不十分なため、パンフレットを配布する際、行ってみたいくなるような気の利いた宣伝をすることができなかった。

アイヌ文様のコースターの製作では、きれいに完成させてあげることに意識が集中し、同じく事前学習不足から、アイヌ文様についての説明が十分に行えず、参加者がアイヌ文化に興味を持ってもらう機会を生かし切れなかった。

何事も、事前学習が大切であると感じた「まつり」でした。



北海道博物館まつりの様子

(下川町教育委員会 学芸員 今井真司)



平成27年度日胆地区博物館等 連絡協議会研修会「常設展を見つめ直す」

日胆地区において平成27年11月10日(火)、11日(水)に「常設展を見つめ直す」をテーマにした研修会をのぼりべつ文化交流館カント・レラ(登別市)で開催しました。

博物館は、テーマによって変わる特別展のように準備と広報に時間をかけるものと、常設展と呼ばれる通常の展示があります。常設展は、その博物館の位置する地域の歴史性などが反映されており、まさに博物館の顔ともいえる展示です。

しかし、常設展示であるため、日々の業務や予算などの関係から、年数の経過した常設展の取扱いに課題を抱えたままとなっている博物館も多くあります。

そこで、「常設展を見つめ直す」を研修テーマに、最近常設展をリニューアルした、または、新設する博物館の事例をもとに、それぞれの博物館における常設展を見つめ直し、その意味とこれからについて考えました。

研修会では、洞爺湖町虻田郷土資料館、新ひだか町博物館、(仮称)伊達市総合文化館の展示コンセプト

トや構成についての事例発表とともに、他の参加館からはそれぞれの館における常設展の課題や展示方法などについて報告がありました。

各館からの充実した報告により、館の実情を共有することができ、今後のより良い博物館づくりを意識することができました。また、研修を通して、常設展示は、地域住民が自分たちの住む土地の歴史を知るうえでたいへん重要なものであり、テーマや展示方法などを状況に合わせてリニューアルしていくことが必要であると感じました。一方で、館の規模や予算、人員、時間などにより展示替えの必要性を認識しつつも着手できないという現状も浮き彫りになったと言える研修会となりました。



研修会の様子

(登別市教育委員会 学芸員 菅野修広)



平成27年度道東3管内博物館 施設等連絡協議会・交流推進会議報告

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、学芸員の資質向上や情報交換を目的に年1回、交流推進会議を実施しています。平成27年度は十勝館内博物館職員等協議会と合同で上士幌町ぬかびら源泉郷を会場に『博物館資料と収蔵庫を考える』をテーマに10月4日(日)、5日(月)に開催しました。

初日の研修会では、北海道大学の松枝大治名誉教授による『北海道大学の総合博物館の博物資料と収蔵庫』という演題での基調講演をして頂くとともに、各博物館・資料館の収蔵庫の状態、管理状況等の事例報告が行われました。基調講演・事例報告の後、コメンテーターとしてお招きした、株式会社丹青研究所の小林宣文氏より、多くの収蔵庫の設計に携わってこられたお立場から、北海道の気候を考慮しながら、どのような収蔵方法、管理体制が望ましいか？などについてコメントを頂き、活発な質疑がなされました。

2日目は地元、ひがし大雪博物資料館の乙幡学芸員がガイド役をしてくださり、エクスカッションが行われました。まず、前日に行われた研修会の内容も踏

まえながら、ひがし大雪博物資料館の展示室や収蔵庫を見学し、資料の収蔵・管理において工夫されている点などを紹介いただきました。中でも、展示室から収蔵庫を見ることが出来る小窓を設置し、普段なかなか見る事の出来ない収蔵庫の様子を覗き見出来るという仕掛けはおもしろく、来館者目線で楽しんでしまいました。その後、野外にでて旧国鉄士幌線のコンクリートアーチ橋梁群や黒曜石原産地などを巡りました。天候にも恵まれ、美しい紅葉の中、上士幌町の歴史と自然に触れる事ができ、とても有意義な時間を過ごし、交流を持つことが出来ました。



旧国鉄士幌線アーチ型橋梁

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 外山雅大)



平成27年度網走管内博物館 連絡協議会第2回研修会開催報告

網走管内博物館連絡協議会では、平成28年1月16日(土)、北見市の北網圏北見文化センターを会場に研修会を開催しました。

内容は、同センターで開催中の美術企画展「幕末明治の浮世絵探訪展—歴史絵から開化絵まで—」について、元倉敷芸術科学大学客員教授で美術研究家である山下伸氏より見どころや作品の時代背景等について解説していただきました。

今回の企画展は収集家の故・浅井勇助氏のコレクションより105点を紹介するもので、山下氏も企画構成から携わったとのことでした。

浮世絵は、印象派の画家に影響を与えるなど、後の美術界に大きな役割を果たすこととなりますが、もともとは瓦版や報道画、ブロマイドなどの大衆に消費される情報媒体として制作されていました。

三枚合わせて一組の作品となる浮世絵には「ずれ」が見られますが、これは海賊版が作られないように、版元が複数の彫師、刷師に分けて制作を依頼していたためです。

明治期の浮世絵はマンガ文化の原点でもあり、コミック画・劇画的な表現以外に、「ふきだし」もすでに使用されていました。また、開化絵においては西洋の透視図法を日本画や洋画より先に取り入れるなど、過去の風習に縛られない柔軟さも兼ね備えていました。

浮世絵と言うと歌麿や写楽、北斎や広重に代表される江戸時代の浮世絵が認知度、評価ともに高いですが、幕末明治の浮世絵も当時のニュースや風景、人々の生活などを詳細に伝えてくれる貴重な資料であり、現代の文化にもつながる、もっと評価されている美術品であることが分かり、非常に有意義な研修会となりました。



講演中の山下伸氏

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)



動物園が伝えること

昨年、動物の声帯模写で知られる江戸家子猫さんの話を聞く機会がありました。動物のなき声を研究する傍ら、多くの動物園に足を運んできた子猫さんの話を聞き、動物園が伝えることの大切さを改めて実感しました。

動物園の役割である「環境教育」や「種の保存」が近年、特にクローズアップされています。森林伐採や密猟によってゾウやチンパンジーが犠牲になり、地球温暖化によりホッキョクグマの生息域が急速に減少しているなど、野生動物の生息域で今、何が起きているのかを伝えることも動物園の役割です。野生動物が絶滅の危機にある背景には人間活動が大きく関係しており、私たちの生活態度を見直そうということを発信することが「環境教育」です。

そして、こうした環境問題を受けて、野生下で絶滅の危機に瀕している希少動物たちを動物園が飼育下で繁殖活動により命をつなぎ守ることが「種の保存」です。

動物園には多くの動物が生活しており、そこには命

の始まりと終わりがあります。生きた動物を展示する博物館として、飼育動物と向き合いながら来園者とも向き合い、動物の生態や行動、動物を取り巻く環境問題を積極的に発信し、伝えることが動物園の役割でもあります。

昨年からは始めたトークカフェでは、飼育員と参加者が動物の誕生と死、獣医療活動、身近な動物の生態や希少動物の生息地の現状など、様々なテーマを通して一緒に考えることができました。

昭和38年の開園から半世紀以上の歴史の中で多くの市民の憩いの場として歩んできたおびひろ動物園が、これからも社会教育施設としての役割を果たすためには、何をどのように伝えるのかという視点が求められるのだと思います。



おび Zoo トークカフェ

(おびひろ動物園 園長 高橋利夫)



平成27年度学芸職員部会 研修会・総会を開催しました

北海道博物館協会学芸職員部会は、会員の資質向上、情報交流を目的として例年、研修会を実施しています。本年度は平成27年9月25日(金)、26日(土)の日程で、土別市で開催し、約50名の会員が参加しました。ここ数年は会員が講師になり、参加会員とのディスカッションを通じ、自分たちの職場に持ち帰って活用してもらおうねらいで実施しています。今回は、「展示リニューアルの裏話～成功と反省から学ぶ～」というテーマで開催しました。平成27年4月にリニューアルオープンした北海道博物館から会田理人氏、平成27年4月に新館がオープンした新ひだか町博物館から藪中剛司氏、平成28年度のリニューアルオープンを目指す枝幸町オホーツクミュージアムえさしの高島孝宗氏、平成23年に展示リニューアルを実施した土別市教育委員会の水田一彦氏が事例報告を行いました。

その後、4人の講師をテーブルホストとして4つのグループを作り、参加者が各グループを回るワールドカフェ方式でディスカッションを行いました。付箋に質問事項や確認事項を書いて模造紙に張り、それにテ-

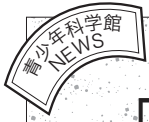
ブルホストが答える形で、展示制作やリニューアルに関する詳細部分について議論を深めました。博物館園にとって展示整備は大きなイベントですが、そう簡単にやり直しが効くものではないのではないので、今回、先行事例を経験した講師に直接いろいろな質問ができる良い機会だったと思います。

2日目は土別市立博物館の地質展示部分で岡本研先生(厚真高校校長)の講義を受けた後、土別市温根別の伊文ダムで蛇紋岩露頭を見学し、mamシ沢でリヒター閃石を目指し岩石採集を行いました。平成28年度の研修会は帯広市で開催を予定しています。学芸職員部会発足以来、記念すべき40回目の研修会・総会になりますので、多くの会員の御参加をお待ちしています。



研修会の様子

(学芸職員部会 事務局長 猪熊樹人)



厚岸町海事記念館特別展 「大黒島～昼と夜の顔～」を終えて

2月13日(土)から2月28日(日)まで、海事記念館一階展示ホールで、特別展「大黒島～昼と夜の顔～」を開催しました。

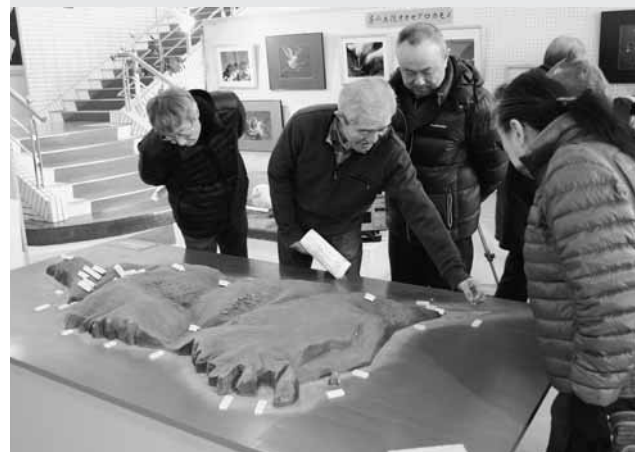
大黒島は、対岸の厚岸町ピリカウタから海上1.8kmに浮かぶ、面積1.1km²、周囲6.1km、高さ約100mの海食台地の島です。昭和26年には島の南西部119,937m²が海鳥の繁殖地として国の天然記念物に指定され、また、現在全島が鳥獣保護区特別保護地区として保護されています。

このように、近くてもなかなか行くことができない大黒島に焦点をあて、町内の写真愛好家宮川佳治氏みやかわよしじが長年撮り続けている写真を中心に、オオセグロカモメが占拠する昼とコシジロウミツバメが乱舞する夜という変化に富んだ島の表情を紹介しました。

オオセグロカモメの捕食、交尾、ふ化の様子や、1980年代初頭の北海道大学奥村助教授らによるコシジロウミツバメの生態研究時の高速ストロボ撮影による飛翔の様子など、日常ではほとんど見ることのできない場面とともに、エトピリカ、ウトウ、ケイマフリなど

の鳥たちの剥製も展示しました。また、昭和39年の北海道大学犬飼教授による調査風景や、昭和57年に結成され現在も活動を続けている帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループの個体数及び個体識別調査の様子も併せて紹介し、大黒島の実像に迫ろうと努めました。

2月20日(土)には、宮川氏の解説でスライド上映会を開催し、海事記念館子どもクラブのメンバーを含む参加者からは、「島に行ってみよう」などの声があがり、大黒島の魅力を満喫していました。



スライド上映の後、ジオラマを前に解説する宮川氏

(厚岸町海事記念館 主幹 熊崎農夫博)



くっちゃんART

今年で8回目を迎えた展覧会「くっちゃんART(アート)」は、「小さな美術館で 多くの作家が集う 賑やかな展覧会」というキャッチフレーズのもと、例年20名前後の作家の参加を得て、油彩・水彩・日本画・写真・木版画・リトグラフ・陶芸・書など多彩な作品が出品されます。倶知安町をはじめ近隣町村に在住する作家のほか、長期滞在する外国人作家も参加し、さらに近年では、地元在住の海外出身者が自分の故郷のアートを紹介したいと、自国のアーティストを推薦するなど、その繋がりと範囲は広がりを見せています。これまでの外国人作家の出身国は、オーストラリア、オーストリア、フランス、アイスランド、韓国、ルーマニア、イギリス、ベトナムにわたり、この国際性あふれる外国人アーティストの出品というのが「くっちゃんART」の大きな特色であり、魅力となっているのでしょう。今年度は作家自身による作品解説「アーティスト・トーク」を、出品作家全員の協力を得て、町内在住のネイティブスピーカーの助けを借りるなどしながら、翻訳・通訳付きで実施しました。

美術館にとって、地元の美術動向を把握し、広く紹介し、支援することはひとつの大切な役割ですが、本展は『世界有数のウィンターリゾート・ニセコ』として急激に国際的知名度が上がり、多くの外国人が長期滞在者として押し寄せている近年の倶知安町の状況を反映し、海外のアートシーンの一端を紹介する展覧会ともなっているのです。地方に身を置きながら、広く世界に目を向け創作し続けた画家・小川原脩の名を背負う美術館での、海外にまで視点が広がるこの展覧会は、地方色の豊かな美術の根として「育って」いく、毎年開催が楽しみになる展覧会です。



今年度からの試み
展覧会場で行われたアーティスト・トークの様子

(小川原脩記念美術館 学芸員 沼田絵美)

館・園の主な展覧会と普及事業 (平成28年4月～6月の行事予定)

石 狩

●札幌市青少年科学館(011-892-5001)

4/14 プラネタリウムリニューアルオープン

4/29～5/5 ゴールデンウィークイベント

●北海道博物館(011-898-0466)

4/16 ちゃれんがワークショップ「自然観察会① エゾアカガエルのラブコールを聴こう」

4/28～6/5 企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」

4/29、5/3～5/5 ハンズオン・イベント

4/29、5/3～5/5 ミュージアムトーク

5/3～5/5 特別イベント「特別展『ジオパークへ行こう!』の展示をみんなでつくろう!」

5/21 ちゃれんがワークショップ「いろいろな鳥笛をつくろう」

6/11 ちゃれんがワークショップ「自然観察会② デジカメで自然観察!」

6/12、26 ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(全2回)」

●野外博物館北海道開拓の村(011-898-2692)

4/23～5/29 展示会「青函革命 つながるつながるかいきょう」展

4/23～5/29 展示会関連事業「ブラールであそぼう!」

4/24、5/1 展示会関連事業「牛乳パックで青函渡し舟をつくろう!」

4/30、5/3 展示会関連事業「段ボールで新幹線、電車ごっこ!」

5/7 展示会関連講演会「青函連絡船がつないだ津軽海峡」

5/8 展示会関連事業「青函連絡船のウッドクラフトをつくろう!」

5/14～5/15 展示会関連事業「HOゲージの体験運転会」

●北海道立近代美術館(011-644-6881)

3/31～6/23 近美コレクション(常設展)「春の名品選ーガレ《鯉文花器》他」女性たちのエコール・ド・パリ」「新収蔵品展」「ふれるかたち」

4/2～5/15 特別展「足立美術館所蔵 横山大観展」

4/2 特別講演会「足立美術館と横山大観コレクション」

4/9 足立美術館所蔵横山大観展「お茶会」

4/16、23、30、5/7 足立美術館所蔵横山大観展「学芸員による見どころ解説」

5/25～6/23 特別展「北海道・いまを生きるアーティストたち ともにいること ともにあること」

●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)

4/24 野外講座「石狩ビーチコマーズ/春の海辺の漂着物」

4月下旬～5月中旬 テーマ展「石狩の絵はがき」

渡 島

●市立函館博物館(0138-23-5480)

5/4 展示解説セミナー「ようこそ函館へ 函館の歴史とお宝紹介」

5/14 美術鑑賞会「アイヌ絵」

5/20 宇宙と天体「春の星座を見てみよう」

5/25 旧函館博物館1号公開

6/14～8/28 企画展「市立函館博物館50年 函博コレクション未来に残したい珠玉の逸品展」

6/19 地域の身近な自然を調べる「浜辺の漂着物を調べよう」

●北海道立函館美術館(0138-56-6311)

1/30～4/7 拡大常設展「ミュージアム・コレクション・スペシャル 文字と記号の織りなす世界+追つもののがたり」

4/16～8/17 常設展「追悼 鎌田 俳捺子展/ミュージアム・コレクション春夏 書家の詩」

4/16 美術講演会

5/7、6/4 ギャラリー・ツアー

5/21 特別展セミナー

6/18～8/7 特別展「画家の詩、詩人の絵ー絵は詩のごとく、詩は絵のごとく」

後 志

●小川原脩記念美術館(0136-21-4141)

4/9 くっちゃんART2016関連イベント アーティスト・トーク「くっちゃんあ〜とNOW!」(第3回)

4/16 土曜サロン「小川原脩とシュルレアリスム①」

4/23～7/10 企画展「小川原脩展 土着と風土」

4/23～7/10 企画展「嶋貫由紀子展」

4/23 嶋貫由紀子展関連イベントアーティスト・トーク

5/7 ワークショップ 技法体験「嶋貫由紀子さんとクレイ・ペインティング」

5/18 地域文化講座

●西村計雄記念美術館(0135-71-2525)

2/25～7/10 およこで楽しむ展覧会「キミならどう思う?」

6/26 西村計雄生誕記念イベント(カフェサービス、コンサート)

空 知

●三笠市立博物館(01267-6-7545)

4/29～5/1 ワークショップ「アンモナイトの秘密」

4/29～5/1 観察会「探検! 博物館」

4/29～5/1 講座「化石博士のなりかた」

5/3～5/5 ワークショップ・観察会「化石博士になろう! 2016GW」

6/12 観察会「第1回自然観察講座ー白亜紀二枚貝の観察ー」

上 川

●旭川市博物館(0166-69-2004)

4/29～5/29 企画展「明治・大正期の旭川〜街のおこりと軍都形成まで」

●北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

～4/17 展覧会「さわって みて」

～4/17 展覧会「プリントアートの魅力」

4/27～6/5 展覧会「つかまえる 風水森をめぐるイメージ」

4/27～10/16 展覧会「木の造形セレクションI」

6/18～8/17 展覧会「ひろしま美術館所蔵 フランス近代美術をめぐる旅」

●士別市立博物館(0165-22-3320)

4/10～5/8 テーマ展「端午の節句展」

4/29～5/5 大型連休企画「ゴールデンウィークも博物館へ行こう! 宝

石みがき体験」

5/3 講座「ビギナー探鳥会」

5/14 講座「ジュニア博物館クラブ①」

5/28 講座「米づくり体験①」

6/5～8/21 特別企画展「合宿の里士別〜ハーフマラソン30周年展」

6/18 講座「米づくり体験②」

6/25 講座「ジュニア博物館クラブ②」

網 走

●北網圏北見文化センター(0157-23-6742)

4/9～4/17 展覧会「平成27年度美術館講座合同作品展」

4/16 天体観望会「木星を見よう!」

4/23～5/22 展覧会「カナダ・イヌイトの壁掛け展」

4/23～5/22 展覧会「宇宙からの光」

5/3～5/5 実験講座「楽しい科学実験教室」

5/3～5/5 天体観望会「太陽を見よう!」

5/8 楽しい自然観察会「天然記念物エゾムラサキツツジと高原のミズバショウを訪ねて」

5/28 天体観望会「火星最接近!」

5/29 楽しい自然観察会「春のワッカ原生花園を訪ねて」

6/18 モノ作り講座「ミニ・ソーラーカーを作ろう!」

6/18 天体観望会「土星を見よう!」

6/19 楽しい自然観察会「初夏の自然観察会」

●博物館 網走監獄(0152-45-2411)

4/29～9/30 企画展 重要文化財指定記念「和洋折衷の極み」展

5/3～5/5 ワークショップ「ゴールデンウィークを楽しもう 豆わらじ作り・伝統遊具作り・オリジナル紙芝居・兜作り」

5/15 ワークショップ「農園体験 畑おこしと種まき」

6/5 講座「春の物作り講座 季節の花を貼りオリジナルバスケット作り」

6/12 ワークショップ「農園体験 サツマイモの苗を植える」

●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

4/14～5/12 ロビー展「音を奏でる狩猟具 柗谷隆男のシカ笛コレクション」

4/16 講習会「シカ笛づくり」

4/17 講座「世界のシカ笛 狩猟と音楽の源流を求めて」

4/24 講習会「お細工物づくり」

4/30 はくぶつかんクラブ「カラフルまが玉づくり」

5/5 上映会「映像上映会」

5/21～7/3 ロビー展「サハ共和国からのおくりもの 針生幸子寄贈コレクションより」

5/21 講座「東日本大震災と文化財レスキュー」

5/28 施設見学会「道立オホーツク公園・北方民族博物館施設見学会」

6/4 はくぶつかんクラブ「手作りバターと簡単チーズ」
 6/5 講座「ミルクと北方民族」
 6/11 講座「ウイタルのこぼと歌」
 6/18 講座「ロシア語通訳の30年 サハ共和国とわたし」
 ●紋別市立博物館(0158-23-4236)
 4/28～5/15 特別展「森ヒロコ銅版画展 北国の幻想」
 5/14 番屋講座「紋別公園の山菜を学ぼう!」
 6/11 番屋講座「草花あそび」

十勝

●帯広百年記念館(0155-24-5352)
 4/6～5/8 ロビー展「五月人形展」
 4/23 博物館講座「史料からみる依田勉三・晩成社2」
 5/21 博物館講座「都市化したエゾリス」
 5/28 博物館講座「ぶらり帯広」(野外)
 6/4、11 博物館講座「レコードと音の文化史25」
 6/5 植物観察会「おびひろ野の花くらべ」

6/18 博物館講座「十勝地方のアイヌ語について」

釧路

●北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
 4/15～7/10 企画展「写真文化首都『写真の町』東川町コレクション展
 写真のフロンティア ヒューマンイズムの視座から」
 4/23 講演会「生の岸辺ー伊福部昭の風景《パサージュ》」
 4/26～5/15 企画展「上野秀実展 - 結晶する境界」
 4/30 アートシネマ館「グレン・ミラー物語」
 5/7 対談「美術にできること」
 5/14、21、6/11、18 ギャラリー・トーク「写真の町東川町コレクション
 の魅力」
 5/28 アートシネマ館「海外特派員」
 6/4 ギャラリー・レクチャー「写真の町東川賞の歩みと受賞作家たち」
 6/8、15、22 ワークショップ「大人の家庭科&お気楽アート教室」
 6/25 アートシネマ館「黄色いリボン」

事務局からのお知らせ

■第55回北海道博物館大会

第55回北海道博物館大会は、下記の日程、会場で開催されます。なお、詳細な日程・内容などにつきましては、後日改めてお知らせいたします。

日程：平成28年7月7日(木)、8日(金)

会場：新ひだか町公民館(新ひだか町静内古川町1丁目1番2号)

■平成28年度のミュージアム・マネージメント研修会

平成28年度のミュージアム・マネージメント研修会は、北海道札幌市で開催される日本ミュージアム・マネージメント学会第21回大会への参加をもって、それに代えさせていただくこととなりました。詳細につきましては、改めてお知らせいたします。

日程：6月17日(金)～19日(日)

会場：北海道大学(札幌市北区北8条西5丁目)

■北海道博物館協会ホームページ

<http://www.hkma.jp>

当協会と加盟館園の情報ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、道博協ニュースの発行や公募・助成情報を掲載しています。

■学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」

<http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報・研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。さまざまな学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、WEBサイトのほか、Facebookページ、Twitterページも開設しています。

■会費納入のお願い

当協会の活動は、会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。納入金額は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店(普)0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】、または【郵便振替口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】までお願いいたします。

(振込手数料は、ご負担くださいますよう重ねてお願いいたします。)